取扱説明書補足資料ー日本語

ServerView Suite
ServerView Virtual-IO Manager
補足情報

2013/12

006-015 版

■ はじめに

本書は、ServerView Virtual-IO Manager V3.2 に関連する以下のマニュアルの補足情報です。本書をお読みになる前に、必ず以下のマニュアルもご覧ください。

- ServerView Virtual-IO Manager V3.2 取扱説明書 (sv-viom-jp.pdf)
- ServerView Virtual-IO Manager CLI V3.2 – Command Line Interface (sv-viomcli-jp.pdf)

■ 対象バージョン

本書は、以下のバージョンの ServerView Virtual-IO Manager(以下 VIOM)を対象にしています。

本書の対象バージョン : V3.2

■ 補足情報

(1) ライセンスおよび製品サポート

Virtual-IO Manager をご使用になるにはライセンス購入が必要です。管理対象のサーバ数のライセンスを用意してください。

- ライセンスは有償です。1 ターゲットサーバブレード毎に 1 ライセンスが必要です。
- Virtual-IO Manager では有償サポートメニューをご用意しています。万が一のトラブル対応等につきましては、SupportDesk 契約が必要となります。ライセンス購入されても、本製品に対するサポート契約を締結されていない場合は、QA 対応やトラブル対応を実施することができません(有償サポート契約がある場合のみ対応可能)。本製品はその性格上、システム構築時より利用するケースが多いため、システム構築時よりサポート契約を締結頂くことを推奨いたします。
- 従来のライセンス製品(PG-SVVM01)を VIOM V2.4 以降で使用することができます。1 ライセンス当たり、18 サーバライセンスとして計上されます。

(2) マニュアル、リリースノート

- インストーラが格納されているフォルダに日本語版のリリースノート(ReadMe_ja.htm)が格納されています。
- リリースノートの「1.2 納品」に記載されている ServerView Software CD および Virtual-IO Manager のライセンスの注文番号は海外における注文番号です。日本国内での注文番号につきましては、システム構成図にてご確認ください。

(3) システム要件

- Virtual-IO Manager V3.2 以降では、マネージャの動作 OS として、Red Hat Enterprise Linux　5.8 / 5.9 / 6.2 / 6.3 / 6.4 をサポートしています。Red Hat Enterprise Linux 5.5 はサポートしていません。
- マネージャの動作 OS として Windows Server 2012 をサポートしています。
- マネージャの動作 OS として Windows Server 2003 及び Windows Server 2003 R2 はサポートしていません。
- 64 ビット Java は未サポートです。Virtual-IO Manager は 64 ビット Java では動作しません。32 ビット Java をインストールの上、32 ビット Internet Explorer を使用してください。
- リリースノート（Readme_jp.htm）の「2.2 必要なハードウェア」に記載されている要件は、Operations Manager の要件を含む推奨値です。

(4) Virtual-IO Manager V3.2 のサポート状況およびサポート前提要件

Virtual-IO Manager V3.2 のサポート状況およびサポート前提要件について記載します。なお、未サポートのハードウェアにつきましては、新バージョンの VIOM でサポートしている可能性がありますので、弊社のインターネット情報ページにて新バージョンのリリース状況も合わせてご確認ください。

- ラックマウントサーバは Virtual-IO Manager V3.0.08 以降でサポートします。
- 各ハードウェアの PXE ブート、iSCSI SAN ブート、FC SAN ブートの対応状況につきましては、各ハードウェアのドキュメントにてご確認ください。オンボードコントローラの場合は PRIMERGY 本体のドキュメントになります。

■ブレードサーバ

ハードウェア	サポート可否	BIOS / ファームウェア	管理番号※1
BX600 Sx シャーシ　/ BX600 ブレード全モデル	×※2	-----	-----
BX900 S1 シャーシ	○	MMB Firmware 4.85 以降※3	PGY0606
BX900 S2 シャーシ	○	全バージョン	-----
BX400 S1 シャーシ	○	MMB Firmware 6.33 以降※3	PGY0563
BX920 S1	○	BIOS 3B39 / iRMC Firmware 4.84G 以降	PGY0562
BX920 S2	○	全バージョン	-----
BX920 S3	○※9	全バージョン※4	PGY0602
BX922 S2	○	全バージョン	-----
BX924 S2	○	全バージョン	-----
BX924 S3	○※9	全バージョン※4	PGY0603
BX924 S4	○	全バージョン	-----
BX960 S1	○	BIOS 1.16 / iRMC Firmware 5.20G 以降	PGY0583
スイッチブレード（1Gbps 36/12）	○	2.14、または 3.10 以降	PGY0444
スイッチブレード（1Gbps 36/8+2）	○※5※6	2.18、または 4.14 以降	PGY0444
スイッチブレード（1Gbps 18/6）	○※5	全バージョン	-----
スイッチブレード（10Gbps 18/8）	○※5	V02.00 NY0040 以降※7	PGY0554

LAN パススルーブレード (10Gbps 18/18)	○	全バージョン	-----
コンバージドスイッチブレード (10Gbps 18/6＋6) [VDX 2730]	○※10※11	-----	-----
Cisco Nexus B22 Blade Fabric Extender	○※10	-----	-----
コンバージドファブリックスイッチブレード (10Gbps 18/8＋2)	○※10※12	-----	-----
ファイバーチャネルスイッチブレード (8Gbps 18/8)	○※10	全バージョン	-----
ファイバーチャネルパススルーブレード (8Gbps 18/18)	○※10	全バージョン	-----
LAN 拡張ボード (1Gbps)	○	全バージョン	-----
LAN 拡張ボード (10Gbps)	○	全バージョン※8	-----
ファイバーチャネル拡張ボード (8Gbps)	○	ファームウェア 1.11A5 / BIOS 3.11A5 以降	PGY0330
コンバージド・ネットワーク・アダプタ拡張ボード (PG-CND201, MC-CNA102E)	×	-----	-----
コンバージド・ネットワーク・アダプタ拡張ボード (PY-CND02, MC-CNA112E)	○※9	V4.0.487.19 以降	ダウンロード検索

※1)管理番号は下記 BIOS / ファームウェア一覧ページの管理番号になります。

http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/bios/

ダウンロード検索と記載されているものにつきましては、下記ダウンロード検索ページから最新版を入手してください。

http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/downloads/

※2)BX600 Sx シャーシ / BX600 ブレード全モデルのサポート予定はありません。

※3)搭載ハードウェアによっては、より新しい MMB Firmware が必要になる場合があります。搭載ハードウェアの要件を必ずご確認ください。

※4)不具合修正のため、最新の BIOS / ファームウェアの適用を推奨します。

※5)VLAN グループ拡張機能(tagged オプション)及びタグ付き VLAN ネットワークを使用する場合はファームウェアをアップグレードする必要があります。スイッチブレード (1Gbps 36/12)は 6.14 以降(管理番号: PGY0444)を適用する必要があります。スイッチブレード (1Gbps 36/8+2)は 6.24 以降(管理番号: PGY0444)を適用する必要があります。スイッチブレード (1Gbps 18/6) は 6.14 以降(管理番号: PGY0444)を適用する必要があります。スイッチブレード (10Gbps 18/8)は V03.00 NY0072 以降(管理番号: PGY0554)を適用する必要があります。

※6)スタッキング構成のスイッチブレード (1Gbps 36/8+2) の場合、MMB Firmware をアップグレードする必要があります。BX900 S1 シャーシ/BX900 S2 シャーシの MMB Firmware は v5.05 以降を適用する必要があります。BX400 S1 シャーシの MMB Firmware は v6.56 以降を適用する必要があります。

※7)BX924 S3 を接続する場合はファームウェアをアップグレードする必要があります。ダウンロード検索からサポートバージョンを入手してください。

http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/downloads/

※8)LAN 拡張ボード (10Gbps) を搭載した BX920 S1、BX922 S2、BX920 S2 は BIOS / ファームウェアのアップグレードが必要です。BX920 S1 に搭載する場合、BIOS 3B52 / iRMC Firmware 4.98G 以降(管理番号: PGY0522)を適用する必要があります。BX922 S2 に搭載する場合、BIOS 3C56 / iRMC Firmware 4.98G 以降(管理番号: PGY0604)を適用する必要があります。BX920 S2 に搭載する場合、BIOS 3C56 / iRMC Firmware 4.98G 以降(管理番号: PGY0605)を適用する必要があります。

※9)管理対象サーバで Windows Server 2012 が動作している場合、CNA ファームウェア 4.2.401.25 以降を適用する必要があります。

※10)搭載したブレードシャーシを Virtual-IO Manager の管理対象にすることはできますが、ネットワーク設定情報の表示や設定はできません。接続されているサーバにプロファイルを割り当てるときには「ダウンリンクを無視する」にチェックを付けてください。

※11)LAN 拡張ボード (1Gbps)や LAN 拡張ボード (10Gbps)を接続した環境は未サポートです。また、接続しているコントローラにて FCoE を使用することはできません。

※12)Virtual-IO Manager では不明なスイッチとして扱います。そのため、画面では正しい写真が表示されず、警告マークもしくは管理不可マークが表示されます。

■ラックマウントサーバ

ハードウェア	サポート可否	BIOS / ファームウェア	管理番号※1
RX100 S7	×	-----	-----

RX200 S7	○※2※6	BIOS 1.8.0 / iRMC Firmware 6.51A 以降	PGY0595
RX200 S8	○	全バージョン	-----
RX300 S7	○※2	BIOS 1.7.0 / iRMC Firmware 6.50A 以降	PGY0575
RX300 S8	○	全バージョン	-----
RX350 S7 / TX300 S7	○※2	BIOS 1.7.0 / iRMC Firmware 6.50A 以降	PGY0567
RX350 S8 / TX300 S8	○	全バージョン	-----
RX500 S7	×	-----	-----
RX600 S6	×	-----	-----
マルチノードサーバ CX400	×	-----	-----
ファイバーチャネルカード（8Gbps）（PY-FC201/L）	○	BootBIOS 6.30a1/ Firmware 2.00a4 以降（ファームウェア/BootBIOS アップデートツール V3.0 以降）	ダウンロード検索
Dual port ファイバーチャネルカード（8Gbps）（PY-FC202/L）	○	BootBIOS 6.30a1/ Firmware 2.00a4 以降（ファームウェア/BootBIOS アップデートツール V3.0 以降）	ダウンロード検索
ファイバーチャネルカード（16Gbps）(PY-FC221/L)	○※7	全バージョン	-----
Dual port ファイバーチャネルカード （16Gbps）(PY-FC222/L)	○※7	全バージョン	-----
ファイバーチャネルカード（8Gbps）（PY-FC211/L）	×	-----	-----
Dual port ファイバーチャネルカード（8Gbps）（PY-FC212/L）	×	-----	-----
コンバージド・ネットワーク・アダプタ（PY-CN202/L, OCE10102-F）	○※3※4	V4.0.487.19 以降	ダウンロード検索
Dual port LAN カード(1000BASE-T)（PY-LA222）	○※2	全バージョン	-----
Quad port LAN カード(1000BASE-T)（PY-LA234）	○※2	全バージョン	-----
Dual port LAN カード(10GBASE)（PY-LA242）	○※2	全バージョン	-----
LAN カード(1000BASE-T)	×	-----	-----
LAN カード(1000BASE-SX)	×	-----	-----
Dual port LAN カード(1000BASE-T)（PY-LA232）	○※5	全バージョン	-----
Quad port LAN カード(1000BASE-T)（PY-LA244）	○※5	全バージョン	-----
Dual port LAN カード(10GBASE-T)（PY-LA252）	○※5	全バージョン	-----

※1）管理番号は下記 BIOS / ファームウェア一覧ページの管理番号になります。
http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/bios/
ダウンロード検索と記載されているものにつきましては、下記ダウンロード検索ページから最新版を入手してください。
http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/downloads/

※2）IO 仮想化対象のサーバで WindowsOS を使用する場合、最新の LAN ドライバ（Onboard/PG-28xx/LND20x/PY-LAxxx LAN Driver & Intel (R) PROSet v16.8 以降）を適用してください。
IO 仮想化対象のサーバで LinuxOS を使用する場合、最新のドライバキット（2.6.18-274.el5 以降、2.6.32-131.0.15.el6 版以降)を適用してください。また、RX300 S7 は BIOS 1.11.0 / iRMC Firmware 6.53A 以降（管理番号: PGY0537）を適用する必要があります。RX350 S7 / TX300 S7 は BIOS 1.11.0 / iRMC Firmware 6.53A 以降（管理番号: PGY0535）を適用する必要があります。

※3）ラックマウントサーバ本体の BIOS / ファームウェアのアップグレードが必要です。RX300 S7 は BIOS 1.11.0 / iRMC Firmware 6.53A 以降（管理番号: PGY0626）を適用する必要があります。RX350 S7 / TX300 S7 は BIOS 1.11.0 / iRMC Firmware 6.53A 以降（管理番号: PGY0625）を適用する必要があります。

※4）管理対象サーバで Windows Server 2012 が動作している場合、CNA ファームウェア 4.2.401.25 以降を適用する必要があります。

※5）ラックマウントサーバ本体の BIOS / ファームウェアのアップグレードが必要です。RX200 S7 は BIOS 2.16.0 / iRMC

Firmware 6.53A 以降(管理番号: PGY0540)を適用する必要があります。RX300 S7 は BIOS 1.16.0 / iRMC Firmware 6.53A 以降(管理番号: PGY0626)を適用する必要があります。RX350 S7 / TX300 S7 は BIOS 1.16.0 / iRMC Firmware6.53A 以降(管理番号: PGY0625)を適用する必要があります。

※6)RX200 S7 の BIOS 2.4.0 は VIOM に未対応のため使用できません。

※7)RX200 S8、RX300 S8 / RX350 S8、及び TX300 S8 において、本ファイバーチャネルカードの IO 仮想化は未サポートです。

次のラックマウントサーバでは、サーバ本体の BIOS / ファームウェアのアップグレードが必要です。RX200 S7 は BIOS 2.21.0 / iRMC Firmware 6.55A 以降(管理番号: PGY0595)を適用する必要があります。RX300 S7 は BIOS 1.24.0 / iRMC Firmware 6.55A 以降(管理番号: PGY0626)を適用する必要があります。RX350 S7 / TX300 S7 は BIOS 1.24.0 / iRMC Firmware 6.55A 以降(管理番号: PGY0625)を適用する必要があります。

(5) インストール時に入力した指定 MAC アドレスおよび WWN アドレスの妥当性チェックは行いません

インストール時に入力した指定 MAC アドレスおよび WWN アドレスにつきまして、妥当性のチェックは行いません。正しいアドレスを入力したことをよく確認した上で、次の画面に進んでください。

(6) インストール後に Java キャッシュデータを消去してください

Virtual-IO Manager をインストールした後、Virtual-IO Manager の画面を起動する前に、必ず Java のキャッシュデータ(一時ファイル)を消去してください。コントロールパネルから Java を起動して、基本タブのインターネット一時ファイルの[設定...]ボタンから実施できます。

(7) Virtual-IO Manager のアップデート手順

アップデートを行う場合、以下の手順で実施してください。

- Virtual-IO Manager V2.1 からのアップデート

  1) Virtual-IO Manager V2.2 にアップデートします。

  2) Operations Manager V5 以降にアップデートします。

  3) Virtual-IO Manager V2.6 にアップデートします。

  4) Virtual-IO Manager V3.2 にアップデートします。

- Virtual-IO Manager V2.2 からのアップデート

  1) Operations Manager V5 以降にアップデートします。

  2) Virtual-IO Manager V2.6 にアップデートします。

  3) Virtual-IO Manager V3.2 にアップデートします。

- Virtual-IO Manager V2.3 からのアップデート

  1) Virtual-IO Manager V2.6 にアップデートします。

  2) Virtual-IO Manager V3.2 にアップデートします。

- Virtual-IO Manager V2.4 以降からのアップデート

  そのまま Virtual-IO Manager V3.2 にアップデートできます。

※Operations Manager をアップデートする前に VIOM のサービスを停止してください。アップデート完了後

に起動してください。

- ServerView Virtual IO DB Backup Service（通常は停止状態です）
- ServerView Virtual IO Manager Service

※Operations Manager を V5 以降にアップデートする途中で以下の警告メッセージが表示されますが、問題ありませんので、[OK]をクリックして先に進めてください。
「There are other ServerView Suite products installed. These products will not work after this upgrade until they are upgraded to the appropriate JBoss versions too.」

(8) ヘルプメニュー

- ヘルプボタンをクリックしたとき、ヘルプウィンドウが Virtual-IO Manager ウィンドウの後ろに表示されることがあります。タスクバーでヘルプウィンドウをクリックして参照してください。
- 下記の半角記号は特殊文字としての扱いになりますので、検索対象に指定できません。

  ！ ″ ＆ ｜ （ ） ＋ ＊ ． ＾ ￥ ？
- 検索対象にアルファベットを一文字だけ入力して検索したとき、検索結果が正しく表示されない場合があります。

(9) サーバブレード BX960 S1 を使用する場合

- BIOS を更新した後、USB メモリは取り外してください。
- iSCSI ブートを設定する場合は、iSCSI ブートチャネルを 2 つ設定してください。また、下のスロット側のオンボードポートに iSCSI ブートのブートチャネルを設定してください。

(10) 同じバージョンの Virtual-IO Manager を再インストールする場合は、VIOM データベースのバックアップ、復元による環境の再構築が可能です。異なるバージョンの場合は、構成のバックアップ／復元により環境を再構築してください。

(11) コネクションブレードのブート後、セットアップタブの画面において、コネクションブレードの表示が「非冗長(Degraded)」と表示される場合があります。

コネクションブレードのブートに 5 分程度かかりますので、5 分～10 分程度待ってから、右上の更新ボタンをクリックして表示を更新してください。

(12) Red Hat Enterprise Linux 6 上のブラウザで Virtual-IO Manager の画面を日本語表示する場合は、ブラウザを使用する環境に JRE Version 6 Update 30 以降がインストールされている必要があります。

(13) VIOM データベースのバックアップ、復元は同一バージョン間でのみ可能です。別のバージョンで採取したバックアップを V3.2 に復元することはできません。

(14) Cisco Nexus B22 Blade Fabric Extender を搭載している場合、プロファイルの割り当てができない場合があ

ります。

BX900 ブレードシャーシは最大 18 台のサーバブレードを搭載できますが、Cisco Nexus B22 Blade Fabric Extender にはダウンリンクポートが 16 個しかありません。そのため、スロット 17 もしくはスロット 18 に搭載しているサーバブレードに対して、Cisco Nexus B22 Blade Fabric Extender のダウンリンクポートを使用するサーバプロファイルを割り当てることはできません。

(15) VIOM のプロファイル編集にて設定から除外した IO チャネルが OS 上で表示されてしまう場合があります。

VIOM のプロファイル編集にて設定から除外した IO チャネルは OS 上で認識できなくなる仕様ですが、表示されてしまう場合があります。

(16) ラックマウントサーバのプロファイルを解除して、そのプロファイルを別のラックマウントサーバに割り当てた後、最初のラックマウントサーバのエントリが消えてしまう場合があります。

消えてしまった場合は、SVOM のサーバリストに再登録してください。

(17) BX920 S3、BX924 S3、CNA 拡張ボードを使用する場合は以下の点にご留意ください。

・オンボード CNA コントローラ及び CNA 拡張ボードにおいて、Virtual-IO Manager を使って SCSI ブートの設定をしている場合、手動でブートメニューからローカルドライブを選択してもブートすることができません。なお、最新のシステム BIOS（R2.11.0 以降）では修正されています。

・オンボード CNA コントローラ及び CNA 拡張ボードにおいて、各ポートの 2 番目のファンクションから PXE でブートすることはできません。（1 番目のファンクションからの PXE ブートは可能です）

・オンボード CNA コントローラ及び CNA 拡張ボードにおいて、プロファイルを解除した後、ポートが無効(Disabled)の状態になります。ポートを有効にするためには、OneCommand Manager をご使用ください。なお、オンボード CNA または CNA 拡張カードの最新のファームウェア（4.0.487.19 以降）では修正されています。

・オンボード CNA コントローラ及び CNA 拡張ボードおいて、3 番目のファンクション情報が OS では表示されません。

・オンボード CNA を 1GbE モード x 4 ポートの構成で使用している場合、4 つのポート全てに仮想化 MAC アドレスを割り当てる必要があります。4 つのポートのうち一部のポートだけを使用する場合は、VIOM のプロファイルを適用した後、OneCommand Manager を使って、ポートの有効/無効を正しく設定してください。なお、オンボード CNA または CNA 拡張カードの最新のファームウェア（4.0.487.19 以降）では修正されています。

(18) ラックマウントサーバ、CNA を使用する場合は以下の点にご留意ください。

CNA（コンバージド・ネットワーク・アダプタ）の Personality を Virtual-IO Manager で設定することができません。プロファイルを割り当てる前に、OneCommand Manager を使って、Personality を事前に設定してください。なお、CNA の最新のファームウェア（4.2.401.25 以降）では修正されています。

(19) オンボード CNA コントローラの動作に合わせてサーバブレードのプロファイルタイプを選択してください。

・プロファイルのタイプは以下を選択してください。

オンボード CNA コントローラの動作モード	プロファイルタイプの選択	サーバタイプに使用する設定値の選択
1GbE の LAN モードで使用する場合	サーバブレード	BX92x-S3(LAN)
10GbE の CNA モードで使用する場合	サーバブレード	BX92x-S3(CNA)

但し、オンボード CNA コントローラに接続されるコネクションブレードスロットに、スイッチブレード（1Gbps 18/6)を搭載している場合は、プロファイルタイプは BX92x-S3(CNA)を選択するようにしてください。ポート数も以下のように 2 つに変更してください。

・サーバタイプに使用する設定値ボックスには BX924 S4 がありません。BX924 S4 用のプロファイルを作成するときは、BX92x-S3(LAN)または BX92x-S3(CNA)を選択してください。

<u>(20) Operations Manager のサーバリストからサーバを削除して再登録する場合は、Virtual-IO Manager のサービスを停止してから実施してください。</u>

Operations Manager のサーバリストから Virtual-IO Manager で管理しているサーバを削除して再登録する場合、削除する前に Virtual-IO Manager の 2 つのサービスを停止してください。

- ServerView Virtual IO DB Backup Service（通常は停止状態です）
- ServerView Virtual IO Manager Service

サーバをサーバリストに再登録した後、2 つのサービスを起動してください。

<u>(21) コンバージドファブリックスイッチブレード(10Gbps 18/8 + 2)を搭載している場合、接続されているサーバブレードにプロファイルを割り当てる際、「ダウンリンクチェックをスキップする」にチェックを入れてください。</u>

以上